

令和3年度 公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** ・ 県単

事業名	畑地帯総合整備事業（国補）		事業箇所	笛吹市八代町南、御坂町二ノ宮 外	地区名	笛吹川左岸	事業主体	山梨県
(1) 事業着手年度	H20年度	(2) 事業期間	H20年度～H28年度		(3) 完了後経過年数	5年	(4) 総事業費	1,734百万円
(5) 事業着手時点の課題・背景					(8) 事業位置図等			
<p>本地区は甲府盆地の南東部に位置し、もも・ぶどうを基幹作物とした農業が営まれている県内有数の果樹産地である。</p> <p>しかしながら、本地区内の農道は幅員が狭く、農作業車両の乗り入れが困難であることから、機械作業の導入が進まず人力作業を中心とした営農体系となっていた。また、地区内は排水条件の悪い個所が多いことから、農作物の湿害が発生するなどの品質の低下も招いており、安定的な果樹生産に支障が生じていた。</p> <p>このため区画整理及び農道、用排水路の整備を行い、農作業の効率化・省力化など、営農条件を改善することで、持続的な果樹産地の維持・発展に取り組むことを目的として事業を実施した。</p>								
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果								
<input type="checkbox"/> 主要目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業生産力の向上 								
<input type="checkbox"/> 副次目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 集落間・小規模拠点施設へのアクセス向上 ・ 農業用排水能力の向上 								
<input type="checkbox"/> 副次効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 果樹園景観の保全 								
(7) 整備内容（目標達成の方法）								
事業量								
・ 用排水路		4路線	L=2,414m					
・ 農道	幹線道路	1路線	L=1,229m					
	支線道路	7路線	L=2,840m					
・ 区画整理		5箇所	A=19.1ha					
・ 暗渠排水		1箇所	A=5.1ha					

2.評価シート(1)

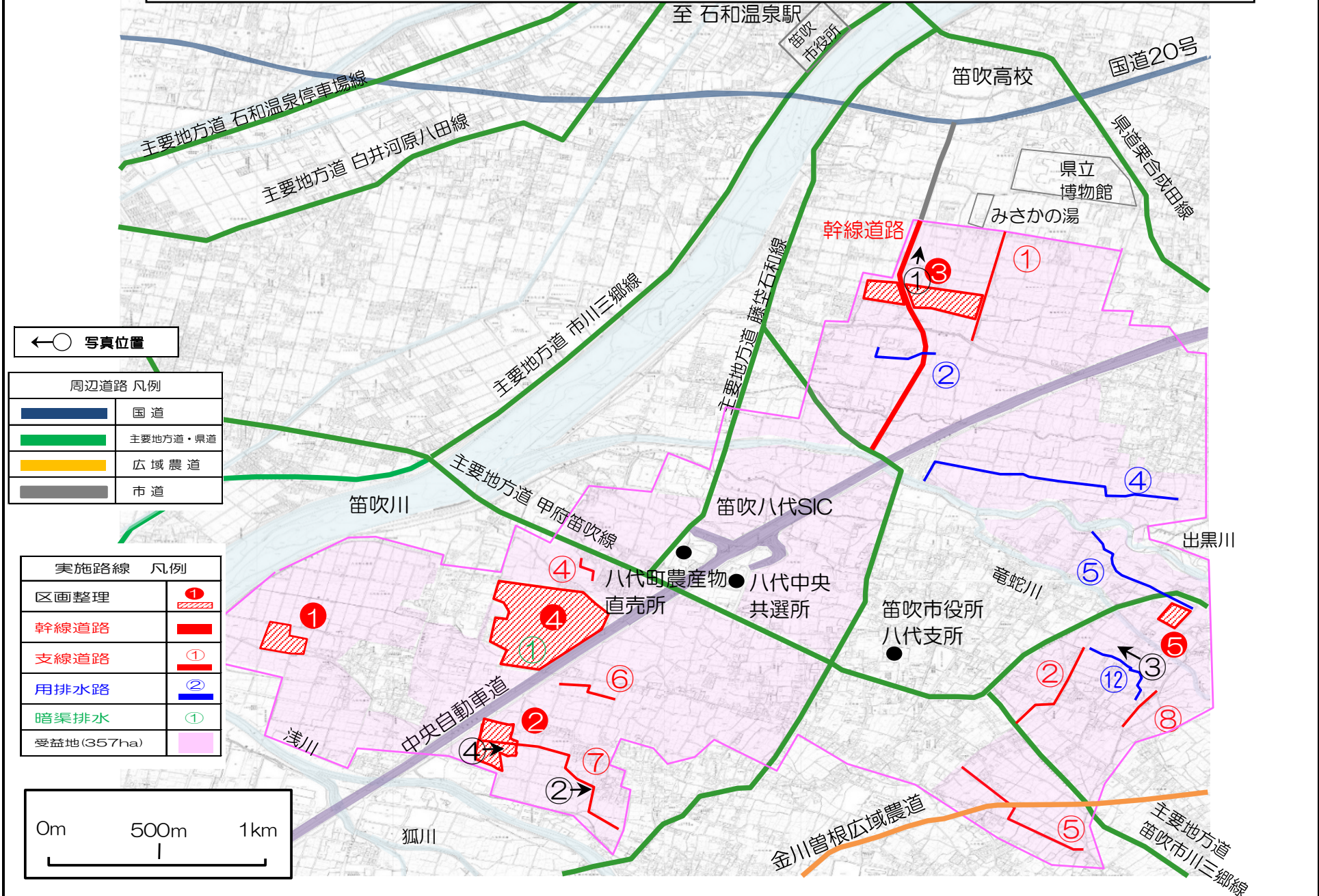
(1) 事業貢献度 〈(良)・不良〉	(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有)・無〉																																																																																					
<p>(理由) 当該地区において、区画整理及び農道、用排水路が整備されたことにより、農作物の生産性及び品質が向上した。また、農業者の維持管理の労力が軽減されるなど営農条件が改善され、果樹農業の振興に大きく寄与している。 併せて、農道の整備により、集落間・拠点施設等へのアクセスが向上し、地域内の安全な移動が確保されるとともに、地域外からの農産物直売所への来訪者は増加傾向にある。</p> <p>①主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>面積当たり農業所得増加額</td> <td>757千円/ha</td> <td>863千円/ha</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/>評価 ・農業所得の増加額が評価基準値405千円/haを上回っている。 (区画整理などの生産基盤整備の実施により、農作業効率やもも・ぶどうを中心とした農作物の品質が向上したことにより農業所得が増額となり、安定した果樹生産の振興につながっている。)</p> <p>②副次目標 集落間・小規模拠点へのアクセス向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全幅員4.0m以上道路延長率</td> <td>0%</td> <td>100% ※1 (延長L=4,069m)</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/>評価 ※1 幅員4.0m以上の道路延長率 100% ≥ 81.8% (基準値) 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>事業着手時点数値等</th> <th>事後評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設老朽度</td> <td>1.16 ※2</td> <td>0.33 ※3</td> </tr> <tr> <td>排水能力向上率</td> <td>1.68 ※4</td> <td>1.38 ※5</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/>評価 ・施設整備により老朽度は改善され耐用年数に対して評価基準値1.0以下を満たしている。 ※2 施設老朽度 = 着手時の経過年数(35年) ÷ 施設の耐用年数(30年) ※3 施設老朽度 = 事後評価時の経過年数(10年) ÷ 施設の耐用年数(30年) ・排水能力向上率が基準値1.00を満たしている。 ※4 排水能力向上率 = 計画排水能力(0.284m³/s) / 既存排水能力(0.169m³/s) ※5 排水能力向上率 = 計画排水能力(0.234m³/s) / 既存排水能力(0.169m³/s)</p> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>果樹園景観の保全</td> <td>基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況 歩行者等の安全性の確保 (歩道 W=3.0m) 幹線農道の北部に位置する「JR石和温泉駅」や「笛吹高校」等への移動者、および近接する観光拠点等への来訪者(歩行者)の安全が確保された。</p>	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	面積当たり農業所得増加額	757千円/ha	863千円/ha	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	全幅員4.0m以上道路延長率	0%	100% ※1 (延長L=4,069m)	指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等	施設老朽度	1.16 ※2	0.33 ※3	排水能力向上率	1.68 ※4	1.38 ※5	項目	内容	果樹園景観の保全	基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>着手時点</th> <th>再評価時点</th> <th>事後評価時点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,838 百万円</td> <td>2,205 百万円</td> <td>1,734 百万円</td> </tr> <tr> <td>工期</td> <td>H20~H25</td> <td>H20~H27</td> <td>H20~H28</td> </tr> <tr> <td>評価基準年</td> <td>H19</td> <td>H25</td> <td>R3</td> </tr> <tr> <td>費用</td> <td>1,838 百万円</td> <td>2,205 百万円</td> <td>1,734 百万円</td> </tr> <tr> <td> 建設費</td> <td>1,838 百万円</td> <td>2,205 百万円</td> <td>1,734 百万円</td> </tr> <tr> <td> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>2,581 百万円</td> <td>2,805 百万円</td> <td>2,517 百万円</td> </tr> <tr> <td> 作物生産効果</td> <td>738 百万円</td> <td>738 百万円</td> <td>406 百万円</td> </tr> <tr> <td> 品質向上効果</td> <td>422 百万円</td> <td>422 百万円</td> <td>477 百万円</td> </tr> <tr> <td> 一般交通経費節減効果</td> <td>391 百万円</td> <td>391 百万円</td> <td>561 百万円</td> </tr> <tr> <td> </td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>1,030 百万円</td> <td>1,254 百万円</td> <td>1,073 百万円</td> </tr> <tr> <td> B/C</td> <td>1.4</td> <td>1.3</td> <td>1.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>その他は走行経費節減効果、営農経費節減効果、維持管理費節減効果、安全性向上効果等費用便益比(B/C)は1.0を超えており、経済効率性は確保されている。</p> <p>(要因変化の分析) 総事業費：NEXCO補償工事による用排水路の事業量減に伴う減額。 ：区画整理において、現況地形に合わせた整備としたことにより、切り盛り等の扱い土量を抑制したことに伴う事業費の減額。 工期：換地に係る確定測量の遅延に伴う工期延長(H27→H28)</p>	項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点	総事業費	1,838 百万円	2,205 百万円	1,734 百万円	工期	H20~H25	H20~H27	H20~H28	評価基準年	H19	H25	R3	費用	1,838 百万円	2,205 百万円	1,734 百万円	建設費	1,838 百万円	2,205 百万円	1,734 百万円									便益	2,581 百万円	2,805 百万円	2,517 百万円	作物生産効果	738 百万円	738 百万円	406 百万円	品質向上効果	422 百万円	422 百万円	477 百万円	一般交通経費節減効果	391 百万円	391 百万円	561 百万円					その他	1,030 百万円	1,254 百万円	1,073 百万円	B/C	1.4	1.3	1.5
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																																				
面積当たり農業所得増加額	757千円/ha	863千円/ha																																																																																				
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																																				
全幅員4.0m以上道路延長率	0%	100% ※1 (延長L=4,069m)																																																																																				
指標	事業着手時点数値等	事後評価時点数値等																																																																																				
施設老朽度	1.16 ※2	0.33 ※3																																																																																				
排水能力向上率	1.68 ※4	1.38 ※5																																																																																				
項目	内容																																																																																					
果樹園景観の保全	基盤整備により、果樹栽培が維持されることで、良好な景観が保全されている。																																																																																					
項目	着手時点	再評価時点	事後評価時点																																																																																			
総事業費	1,838 百万円	2,205 百万円	1,734 百万円																																																																																			
工期	H20~H25	H20~H27	H20~H28																																																																																			
評価基準年	H19	H25	R3																																																																																			
費用	1,838 百万円	2,205 百万円	1,734 百万円																																																																																			
建設費	1,838 百万円	2,205 百万円	1,734 百万円																																																																																			
便益	2,581 百万円	2,805 百万円	2,517 百万円																																																																																			
作物生産効果	738 百万円	738 百万円	406 百万円																																																																																			
品質向上効果	422 百万円	422 百万円	477 百万円																																																																																			
一般交通経費節減効果	391 百万円	391 百万円	561 百万円																																																																																			
その他	1,030 百万円	1,254 百万円	1,073 百万円																																																																																			
B/C	1.4	1.3	1.5																																																																																			
<p>(3) 事業実施による環境の変化</p> <p>①自然環境への影響 基盤整備を進めたことで荒廃農地の発生防止につながり、地域の良好な農村景観が保たれている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響 なし</p> <p>③環境保全対策の効果発現状況(措置を講じた場合) なし</p>																																																																																						
<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</p> <p>①社会経済状況の変化 笛吹八代SIC開通に伴い県外からの農産物直売所や観光拠点施設への来訪者の増加や県外への果物出荷のアクセスの向上により、高品質な果樹生産の維持、拡大が図られている。</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化 なし</p> <p>③事業環境等の変化 なし</p>																																																																																						

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) 農道の整備により、農作物の運搬時間が短縮されるとともに、果樹等の荷傷みが防止され品質確保が図られた。また、用排水路の整備により、湿害による農作物の品質低下が防止され、安定した農産物が生産されるとともに、豪雨時にも溢水被害がなくなった。 農道、水路の整備と併せて、農地の区画整理を実施したことで、作業効率のよいほ場が形成された。 これらの整備により、担い手の耕作面積が約63haから82ha、3割増加し、担い手農家を中心に高品質なもも、ぶどうの生産が維持されており、見込んでいた事業効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法 ・時期： 年度 ・方法：</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(既に実施した改善策の内容と効果) なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈有・無〉</p> <p>(理由) なし</p> <p>(具体的反映策) なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 〈有・無〉</p> <p>なし</p>

3.添付資料シート(1)

畑地帯総合整備事業 笛吹川左岸地区 計画一般平面図



3.添付資料シート(2)

① 幹線道路



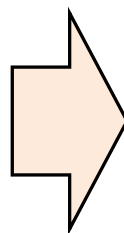
事業前

- 地区内中央に位置する「八代中央共選所」への農作物の集出荷において、地区内の道路幅員が狭く、時間を要していた。
- 朝や夕方の通勤・通学時には「農業機械等」と「通勤の車両」、「通学の自転車」等が交錯し危険な状況であった。

事業後

- 幹線道路の整備により地区の拠点となる共選所へのアクセスの向上はもとより、効率的な輸送路が確保されたことで地区外への流通体系が改善された。
- 首都圏からのアクセスも容易となり近隣の農産物直売所は来訪者で賑わいをみせている。
- 歩道が整備されたことにより、車両等の接触の恐れがなくなり安全性が確保された。

② 支線道路7



事業前

- 幅員が狭いため車両のすれ違いが困難であり、舗装が傷んでいることで荷傷みが発生していた。

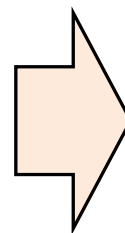
事業後

- 農道整備により、通作や集出荷の効率化など営農条件が改善された。
- 舗装により荷傷みが防止され、果樹の品質確保が図られた。

3.添付資料シート(3)



③ 用排水路12



事業前

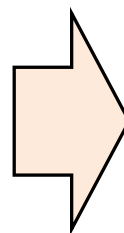
- 石積の崩れにより耕作土が流出し通水阻害が生じており、維持管理に多大な労力を要していた。
- 整備前の水路は排水断面が確保されておらず溢水被害が生じていた。

事業後

- 用排水路の整備により、湿害が解消され果樹の品質向上が図られた。
- 石積水路を整備することで、農地の浸食が防止され通水阻害も解消し、維持管理の労力が軽減された。



④ 区画整理2



事業前

- 狭小で不整形な区画のため、農作業機械の搬入に支障があり作業効率

事業後

- 農地の集団化が進み、大区画化されたことにより農作業機械の搬入が可能となり農作業の効率化が図られた。